

最先端表現技術利用推進協会レポート Vol.15

一般財団法人 最先端表現技術利用推進協会

第9回 部会「ホロレンズ*体験会」

実機提供 サードウェーブデジノス 林田 奈美(個人会員)

日時: 2017年1月10日(火) 15:00~フォーラムエイト東京本社

概要: 本体に付属のアプリを使い、参加者全員でホロレンズを実体験しました。装着感やジェスチャー、音声による操作などの使い勝手、今後の可能性などについて意見交換が行われました。

*マイクロソフト製「HoloLens」は、完結型ホログラフィックコンピュータであり、内蔵センサーにより簡単なジェスチャーや音声によるコマンドで反応するワイヤレスで利用できるヘッドマウントディスプレイ(HMD)で、視線や頭の動きに合わせてカーソルが動きます。半透明なゴーグルを通じ、現実世界に浮かぶウィンドウにバーチャルな世界が表現され拡張現実が体験できます。



第10回 部会「AR/VRはモバイルが広げる」

発表者: 株式会社NTTドコモ 中村真之助(個人会員)

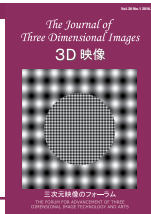
日時: 2017年2月13日(月) 15:00~フォーラムエイト東京本社

概要: 一般論としてモバイル機器へのAR/VR普及の課題は、通信システムの進化とモバイルデバイスの進化が必要であり、今年後半から始まるデバイス処理能力UP、4Kパネル、高速化(5G導入)により期待される応用分野(新しいビジネストレンド)等の説明がありました。



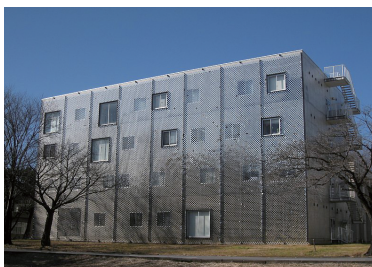
3D フォーラムレポート Vol.4

三次元映像のフォーラム



三次元映像のフォーラム第118回研究会

三次元映像のフォーラム第118回研究会は、宇都宮大学感性情報科学研究会との共催研究会・見学会として2017年1月23日、宇都宮大学工学部CDI棟(地域共生研究開発センター イノベーション創生部門)とオプティクス教育研究センターを会場に開催された。



佐藤誠 三次元映像のフォーラム代表幹事の開会の言葉に続き、以下の講演と見学が行われた。

●話題提供

「立体視、両眼視と質感、立体感のかかわりを巡る話題から」桑山哲郎(3Dフォーラム/千葉大学)から、両眼視と単眼視に関する話題

提供が行われ、種々の奥行反転錯視物体のデモが行われた。

●講演1

「宇都宮大学感性情報科学研究会の研究紹介」佐藤美恵 教授(宇都宮大学)より、宇都宮大学情報科学研究会の活動の全貌が紹介された。

●講演2

「反射型結像素子による空中スクリーンと空中ヒーターの形成」山本裕紹 准教授(宇都宮大学)より同研究室で行われている空中像と空中ヒーターの形成についての取り組みの紹介が行われた。

●見学

オプティクス教育研究センターとCDI棟の研究室の見学が行われた。空中に生じる像と空中ヒーター、高速度で表示像を切り替えることによる暗号化表示などを実体験することができた。

研究会と見学をご支援いただいた宇都宮大学の皆さんに感謝の言葉を述べ、研究会・見学会を終了した。

最先端表現技術利用推進協会レポート Vol.16

一般財団法人 最先端表現技術利用推進協会

第12回部会「キヤノン4Kレーザープロジェクターと短焦点プロジェクター評価体験会」

製品説明・デモ: キヤノンマーケティングジャパン 門安博氏
キヤノン 西原芳樹氏

日時: 2017年5月15日(月) 15:00~フォーラムエイト東京本社

概要: 4Kと短焦点の最新プロジェクターをお持ちいただき、説明とデモをしていただいた後に、表技協会員の持ち込んだ映像を投影し評価をさせていただきました。

■4Kレーザープロジェクター: 4K6000STZ

4,096×2,400×3 LCOS/6000lm/レーザー光源/26Kgと同クラスとしては小型軽量。センターのピントを保ったまま周辺のピントを変えられるなどプロジェクションマッピングやVRシアターにも適した機能が確認できました。



4K レーザープロジェクター



短焦点プロジェクター

■短焦点プロジェクター: WUX500ST

1,920×1,200×3 LCOS/5000lm/超高圧水銀ランプ光源/短焦点でありながら最大75%のレンズシフトが可能。机の下から打ち上げるようにスクリーンに投影していた状態からレンズシフトしてスクリーンの下側まで下げてみっていますが、四隅までピントが合っています。通常短焦点ではスクリーンの高さ位置が決まってしまうピントも合いにくいので苦労しますが、これだけレンズシフトや四隅までピントが合えばセッティングが楽になり短焦点プロジェクターの活用範囲が広がると感じました。



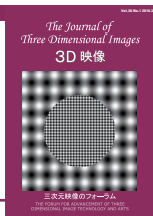
シリコンスタジオの Xenko で 4K ゲームを体験。



フォーラムエイトの UC-win/Road で 4K の運転シミュレーションを体験

3D フォーラムレポート Vol.5

三次元映像のフォーラム

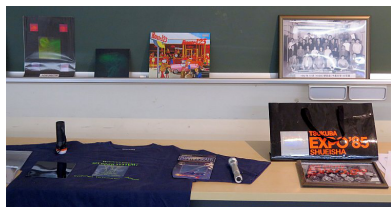


三次元映像のフォーラム第119回研究会

日時: 2017年3月28日(火)

開催場所: 東京工業大学大岡山キャンパス

今回の研究会はHODIC(日本光学会 ホログラフィック・ディスプレイ研究会)との共催となり、「ホログラフィと3次元映像のこれまでとこれからー羽倉弘之氏のご逝去を悼んで」というテーマのもとで開催し、約70名が参加。講演、ホログラフィ関連の活動報告と情報提供が行われました。会場には故・羽倉弘之氏の著作と3Dグッズのコレクション、石井勢津子氏の作品展示、HODIC会員によるアニュアル展示が行われ、出席者全員に羽倉氏所蔵のホログラムが記念として贈られました。



故・羽倉弘之氏のコレクション展示

【プログラム内容】

特別プログラム 羽倉弘之氏を偲んで

中嶋正之(東京工業大学名誉教授)「羽倉氏の思い出」
林 良子(はまぎんこども宇宙科学館)「羽倉さんと横浜こども科学館」
北岡明佳(立命館大学教授)「羽倉弘之氏との思い出」

講演1: 「3D映像の生体への影響〜両眼視差と輻湊眼球運動」
奥山文雄(鈴鹿医療科学大学)

講演2: 「Microsoft HoloLens と「MR」」林田奈美(サードウェーブデジノス)
「ヘッドマウントディスプレイ(HMD)の光学系ー技術史研究家の視点から/ヘッドマウントディスプレイ(HMD)におけるヘッドトラッキング技術」桑山哲郎(3Dフォーラム)

講演3: 「高臨場感メディアサービスに向けたイメージングプレゼンテーション技術 Kirari! と臨場感評価」高田英明(NTTサービスエボリューション研究所)

講演4: 「ホログラフィ映画の役割、映画の明日(非圧縮4K)」檜山茂雄(多摩美術大学)

講演5: 「ホログラフィ・アートグラントと作品制作」石井勢津子(美術家)

ホログラフィ関連の活動報告:

「Emmett N. Leith Medal」の受賞 辻内順平(東京工業大学名誉教授)
「アメリカにおける3次元」山口健(日本大学)
「ホログラフィ・ワークショップ実施の報告」石川洵(石川光学造形研究所)